

# これまでの検討経緯

令和4年7月15日  
山梨県

# これまでの検討経緯（リニア駅前エリア整備の在り方検討会議）

令和元年度

リニアやまなしビジョンの策定（令和2年3月）

第1回（令和2年7月7日）

- （1）リニアやまなしビジョン、交通需要推計によるリニア駅の乗降客数について
- （2）本会議の主旨について
- （3）リニア駅前エリアの交通結節機能の整備の在り方について
- （4）公共交通によるリニア駅と既存駅等とのアクセス向上について

第2回（令和2年9月4日）

- （1）ゲストスピーカーによるバス交通システム先行事例研究
- （2）バス交通システムの導入事例について
- （3）リニア駅前エリアにおける交通空間のゾーニングについて

令和2年度

リニア駅前エリア整備  
の在り方検討会議  
開催(全5回)

第3回（令和2年12月22日）

- （1）リニア駅前エリアにおける交通結節機能整備の考え方
- （2）ゲストスピーカーによる講演  
東京大学大学院 教授 羽藤 英二（タイトル：国土の未来）
- （3）リニア駅ー小井川駅間のシャトルバスについて
- （4）リニア駅からのバス交通ネットワークについて

第4回（令和3年2月10日）

- （1）リニア駅前エリアにおける交通結節機能の概略レイアウトについて
- （2）リニア駅ー小井川駅間のシャトルバスの整備・運営手法について

第5回（令和3年3月25日）

- （1）リニア駅前エリア整備の在り方（整備方針）
- （2）公共交通によるリニア駅と既存駅等とのアクセス向上について



令和4年度

第1回 リニア駅前エリア整備検討会議

# これまでの検討経緯（リニア駅前エリア整備の在り方検討会議）

- リニア駅前エリア整備の在り方（整備方針）（R3.3 山梨県）では、基本方針を踏まえた「整備コンセプト」や各機能の考え方を示した「整備の在り方」の整理を行った。

## 整備コンセプト

- 基本方針  
「リニア駅前エリアは、新たなゲートウェイとして位置づけられており、交通結節点として必要な機能を整備していく」
- 整備コンセプト  
「交通結節機能」「防災機能」「サービス機能」「次世代モビリティ」の4つの軸



## 整備の在り方

- 交通結節機能  
⇒「アクセスのしやすさ」と「乗り換えのしやすさ」という考えを基に、南北の交通広場の使い分け、公共交通と一般交通の分離が必要とされており、また交通モードの特性と配置や、高速道路との接続の考え方が整理されている。
- 防災機能  
⇒「災害時にも交通結節機能が保持できる交通結節点」という考えを基に、浸水時の対策、P&R駐車場を雪や火山灰の仮置き場としての活用、緊急避難所としての活用が必要とされている。
- サービス機能  
⇒「交通結節機能に付随するサービス機能の整備」という考えを基に、公共的なサービス(待合空間等)と各種情報の提供(観光情報や運行状況等)が必要とされている。
- 次世代モビリティへの対応  
⇒「山梨県の強みを活かし、将来を見据えた整備」という考えを基に、次世代モビリティの考慮、クリーンエネルギー分野を積極的に導入するとしている。

交通結節機能の整理

一般交通	公共交通
P&R駐車場	タクシー 乗降場
観光バス乗降場	バス待機場
短時間駐車場	タクシー 降車場
一般車降車場	高速バス 乗降場
障がい者乗降場	路線バス 乗降場
	タクシー 乗車場
	シャトルバス 乗降場

防災トイレ



P&R駐車場を雪の仮置き場としての活用



待合空間



観光案内所



水素ステーション等の積極的な導入

